

令和7年11月11日(火)

サンビレッジ国際医療福祉専門学校

言語聴覚学科 2年生が 施設実習にきました。

令和7年11月11日(火)、サンビレッジ国際医療福祉専門学校の言語聴覚学科2年生8名が施設実習にきました。はじめは緊張した様子でしたが、子ども達と活動を共にする中で、いつしか緊張もほぐれ、充実した実習になったようです。

また、次のような感想をいただきました。

- ・「先生みてー」という声がたくさん聞こえてきたり、学生に「みてー」と声をかけてくれてとてもうれしかった。
- ・子どもたちをほめて意欲を引き出していくような関わり方が、勉強になった。
- ・小児の分野は難しくて想像で補うことが多かったが、見学することでよりわかりやすくより興味がわいた。
- ・いすとりゲームの時、座る椅子がかぶるとジャンケンになり、子どもたちが自らジャンケンをする姿があった。負けると悲しそうな表情をするものの、別の椅子へ移動しゲームの続きをそばで見るなど、気持ちを全て行動で表すのではなく、ちゃんとコントロールしながらゲームに参加する子が多い印象だった。
- ・先生方の声かけの中で、できたことをほめている様子が印象的だった。ほめられた子どももはうれしそうにしており、その後の活動で意欲的に参加している様子がみられた。
- ・子どもができたことに対して1つ1つほめることで、活動に意欲が出てくるため、できることではなくできることに目を向けることが必要だと改めて学ぶことができた。

- ・先生方はお子さんの行動、言動に声かけしていたり、様々な工夫をしていてとても勉強になった。前回見学した子どもが、自分でできることができて驚いた。また、自分でやろうとする意欲も感じられてとても勉強になった。
- ・保護者とも定期的に話をし、子どもだけでなく保護者ともよりよい関係を築いていくことも大切だと思った。